



創立五十周年 1967-2017

青森総合卸センターニュース



編集・発行 協同組合青森総合卸センター 〒030-0131 青森市問屋町2丁目17-3 ☎017-738-4711 FAX017-738-7323
URL http://www.tonyamachi.com E-mail info@tonyamachi.com 発行/2017(平成29)年12月27日

京都の百年企業などを視察

国内経済視察会



国内経済視察会

京都の企業や商店街等を視察する国内経済視察会が、11月30日から12月3日まで行われた。組合創立50周年記念として内容を拡充した今回の視察会には、企画を担当する佐治副理事長・企画情報委員長をはじめ、西理事長、柳谷副理事長を含む組合員ら19名が参加した。

初日に訪れたのは日本初の民間はかりメーカーとして1893年に創業した(株)イシダ。同社はスーパードライなど豊富な様々な「定量袋詰め」商品の計量に欠かせない組み合せの計量機「コンピュータスケール」を開発し、世界でも70%以上のトップシェアを誇る。百年以上続く同社の企業理念は「自分良し、相手良し、第三者良し」の「三方良し」。説明してくれた青木総務課長は「当社の目指すべき姿は、世界の人々に喜ばれ、世の中に必要とされる存在である。世の適社・適者」となること」と話した。

2日目に視察したのは、MKタクシーの名で知られる京



MKタクシーの朝礼を見学

都に本社を置くタクシー会社の(株)エムケイ。同社は、タクシー運転手がお礼を言わない、一言も発しないのが常識の時代に「挨拶をしなければ運賃はいただきます」と宣言し話題となり、「お客様第一主義」と「タクシードライバーの社会的地位向上」を経営理念に、徹底した社員教育で業績を上げている。視察では、同社研修所にて社員教育の一環である朝礼を見学。研修所の久保田教官は「研修を受けることで自分に自信が持てる、その自信がしつかりとしたサービスへ繋がる。それは必ずお客様からの評価に結び付く」と説明した。

一行はその他「京の台所」といわれる400年以上の歴史を誇る京都錦市場商店街振興組合の視察も実施。同商店街には江戸時代に活躍した画家の伊藤若沖の生家があり、

大臣表彰を受賞

木村理事が国土交通



三協運輸(株) 代表取締役社長
木村 英敬 氏

当組合の理事である三協運輸(株)代表取締役の木村英敬氏が、自動車関係功労者国土交通大臣表彰を受賞した。

10月30日(月)に国土交通省で表彰式が執り行われ、石井国土交通大臣から木村氏に表彰状が贈られた。

同表彰は、自動車関係事業に長年精励し功績顕著である者を国土交通大臣が表彰するもの。木村氏は1976年より貨物運送業を営み、2011年から青森県トラック協会の会長も務め、氏の長年にわたる功績が認められた。

健康経営キックオフイベントで組合取組事例発表



事例発表する藤本専務

青森県内各事業所の健康増進活動の促進に向けた「健康経営キックオフイベント」が11月6日(月)、青森国際ホテルで開催された。同イベントは、青森県商工会議所連合会など県内経済5団体の共催で、県内の職域全体に健康推進の取り組みを普及するため企画され、約300人が出席した。

キックオフイベントでは、全国健康保険協会青森支部が取組む、職場における健康づくりの推進をめざす「健康宣言」に、県内経済5団体が新たに3,000事業所の登録を目指すキックオフ宣言を実施。同支部と連携協定を結び、健康宣言の普及啓発や健康経営事業所の認定を目指す企業への支援や情報提供を行う。

またイベントの中で、健康経営の先進事例として当組合と組合員の(株)ヒグチがそれぞれの取り組みを発表。当組合のプレゼンでは藤本専務理事が、集団健康診断やインフルエンザ予防接種、健やかレターなど組合の実施する健康事業について紹介した。

若沖が市場の存続に奔走するのシャッターに若沖の絵を描くなど文化的価値を創出するなどで、錦ブランドの維持向上を図っている。

**今年度の問屋町内除排雪
作業の委託業者を承認**
第6回理事会

11月20日(月)に第6回理事会が開かれ、審議の結果、全て原案どおり承認された。
また、事務局からは組合創立50周年記念事業や2017年度決算予想についてなど報告した。

主な案件審議は次のとおり
案件一 環境対策委員会からの意見について

問屋町除排雪作業の委託や問屋町合同清掃の表彰などが承認された。

交通事故防止対策を協議
問屋町交通診断

当組合と青森交通安全協会問屋町支部(工藤支部長)では、問屋町の交通事故防止対策を協議する問屋町交通診断を11月2日(木)に実施した。
当日は、青森警察署、国、県、市の各関係機関の担当者のほか、問屋町支部会員26名が出席した。

診断では、貸切バスで移動し、問屋町内で交通事故の発生が予想される箇所等を視察。交通量が多く事故の可能性の高い問屋町東口交差点や第二問屋町北口交差点などで



事故防止対策を協議



産業会館前の信号機も現地で確認

は降車し、現地の状況を確認した。視察後は問屋町会館に戻り、対策を協議した。
今回の診断では青森警察署に対し、青森産業会館前感応式信号機の感度不良について早期対応を要望。その結果、12月には同所に感知器が増設された。
診断ではその他、市に対し、問屋町枝線道路の早期アスファルト舗装の実施や問屋町内の道路照明不点灯箇所の補修についても要望した。

**中小企業の生き残り
策などを学ぶ**

11月21日(火)に、問屋町ビジネススクールと中小企業大学校仙台校とのコラボレーションセミナーが問屋町会館で開催された。
同セミナーでは、(株)創造経

について
案件三 第51回通常総会の日程等について
案件四 2017年度第7回理事会の日程等について
理事会終了後には青森問屋町配送(株)の第3回取締役会が開かれ、提出案件が全て原案どおり承認された。

営センター代表取締役社長の森田雅美氏が講師を務め、「これからの中小企業と強い幹部の育て方」をテーマに、環境変化に対応し中小企業が生き残るための方策を解説した。
森田氏は「今は縮小する市場の中で、パイの奪い合いが行われており、上位3分の2しか生き残れない時代。新しいことをする前に健全な経営体質をつくるのが大事となる。まずは赤字の原因を具体的な数字でとらえ、今の本業で売上を増やさずに利益を出す。そのためには、不採算部門は切り捨て、経営資源の再配分を行う。経営者には規

模を縮小する勇気も必要である」と厳しく語った。
また、中小企業の生き残り策として「企業の価値・特色の見直しを行い、自分の得意分野でどこまで極められるかが重要となる。地域・分野を絞り、とことん深め、顧客のニーズに徹底して応える。また、計数に基づく経営を行い、常に素早く修正することが中小企業には求められる」と提案した。
最後に「強い人づくりが組織づくりにつながる。改善の基本は、上が変われば下が変わる。ただし、経営者だけが経営している企業は変わ

**熱戦が繰り広げられた
問屋町ボウリング大会**

秋の恒例行事である問屋町ボウリング大会が、11月17日(金)にアオモリボウルにて行われた。組合で実施している福利厚生事業で最も歴史が古い同大会は今回で41回目の開催となり、28組84名と多くの参加者を集めた。



優勝者が揃って記念撮影

大会は1チーム3名の団体戦と個人戦で行われ、3ゲーム合計のスコアで順位を争う。ゲーム開始前に行うエキシビジョンゲームでは成功チームが「ゼロ」という波乱の幕開けとなった今大会。熱



コラボレーションセミナー

らない。経営者と補完者(管理者)が一体となった経営が必要。中小企業の場合、経営者の補完者が1人いれば企業が変わる。補完者づくりには7、8年かかるが愛情をもって人づくりに取り組んで欲しい」と語った。

短期間のイベントや警備には
レンタル無線機が最適です
(株)電技パーツ
青森市第二問屋町3-6-44
TEL: 017-739-5656
Email: shop@dengiparts.co.jp

お問合せ
下さい
電子部品
無線各種
PC関連
防犯カメラ
放送設備

宇部三菱セメント(株)特約店
株式会社 青森カイハツセメント
本社 青森市第二問屋町三丁目6番12号
電話(017)739-2436 (代)
八戸支店 むつ営業所 五所川原営業所

業務報告

…主要事項…

- 11月
 - 1日▽問屋町支店長・所長連絡会第2回幹事会
 - ▽青森県中小企業診断協会経営講習会・懇親会
 - 2日▽高崎卸商社街(協)団地完成50周年記念式典
 - ▽問屋町交通診断
 - ▽県中小企業組合士会通常総会
 - 6日▽青森商工会議所「健康経営キックオフ・イベント」
 - ▽ポルタリング教室vol.13
 - 7日▽公共施設等視察会
 - ▽インフルエンザ集団予防接種③
 - 8日▽市高度化事業団体連絡協議会先進地視察調査
 - ▽第2回とんやまち健康づくり実践塾
 - 10日▽問屋町納税貯蓄組合第47回定例会
 - 11日▽大農林水産祭(12日)
 - 13日▽北日本流通ヴァン第2回取締役会
 - ▽県流通団地連絡協議会通常総会
 - 14日▽青森交通安全協会交通安全県民大会
 - ▽県知事三村申吾県政を語る集い
 - 15日▽金融審査会
 - ▽県経営者協会理事会・常任幹事会合同会議
 - ▽県社会保険委員表彰・研修会
 - 16日▽第2回環境対策委員会
 - 17日▽第41回問屋町ボウリング大会
 - 18日▽大星神社新嘗祭
 - 20日▽第6回理事会・青森問屋町配送第3回取締役会トコラワーアレンジメント教室
 - 21日▽商団連創立50周年記念式典
 - ▽中小企業大学校仙台校コラボレーションセミナー
 - 22日▽市健康寿命延伸フェア事例発表
 - 24日▽青森社会福祉協議会チャリティコンサート収益金寄贈
 - 28日▽県商工労働部経営状況等実態把握調査
 - ▽問屋町支店長・所長連絡会第24回親睦交流会
 - 30日▽国内経済視察会(12月3日)
 - 1日▽商業簿記3級取得講座⑨(職務管理編)①
 - 7日▽職務力向上研修(職場管理編)②
 - 8日▽商業簿記3級取得講座⑩(職場管理編)②
 - 9日▽職務力向上研修(販売経営管理編)
 - 14日▽流通基礎講座(販売経営管理編)
 - 15日▽業界で生き残るために(プレゼン編)
 - 16日▽Y.S.C.L.U.B.Ⅱ(木曜コース)②
 - 17日▽Y.S.C.L.U.B.Ⅱ(金曜コース)②
 - 21日▽好感をもたれる話し方(助成金編)

経済雑感

第八十回

弘前大学大学院医学研究科 特任教授 中路 重之

前号に引き続き、弘前大学大学院医学研究科の中路特任教授による経済雑感をお送りする。

健康づくりと経済(その2)

「日本一の短命県!」と煽ったところでその興味が長続きするとは思えない。実際、青森県のマスコミの記事にもやや飽きた感じが漂っているようにも感じる。焦るのは筆者ばかりか。そこで経済である。国民の一番の関心事はそこにある。そしてもう一つは少子高齢化である。地方創生である。

2013年、文部科学省



弘前大学大学院 医学研究科 特任教授 中路 重之 氏

の国家プロジェクトCOI (Center Of Innovation) 事業に弘前大学が採択された(認知症・生活習慣病とビッグデータ解析の融合による画期的な疾患予兆発見の仕組み構築と予防法の開発)。当初から短命県返上を最終目的に据えていた。本

ある。本プロジェクトで得られたエビデンスとそのプラットフォームに集結した人材が連携することで、次のステップ、つまり短命県返上(第二のフィールド)に結びつけることができる。

岩木健康増進プロジェクトの対象者は、弘前市岩木地区在住の成人で、毎年の受診者は約千名。加えて、同地区の400名の小中学生(小学校5年生以上の各学年)の調査も行っている。

企業と連携した活動には、①花王、栄研(弘前)によるスマートフォンの開発②イオンによる「モーグルウォーキング」の実施③マルマンコンピュータによる「健康啓発アプリ」の開発④楽天による「健康物語」の開発⑤ライオンによる「口腔内健康の検査法開発と啓発⑥多企業を巻き込んだ「啓発型健診」の開発、など

木健康増進プロジェクト」で弘前大学COIには、具体的に二つの大きなフィールドが存在する。ひとつは「岩木健康増進プロジェクト」で

「健康づくりと経済」の連載は、弘前大学COIには、具体的に二つの大きなフィールドが存在する。ひとつは「岩木健康増進プロジェクト」で

「健康づくりと経済」の連載は、弘前大学COIには、具体的に二つの大きなフィールドが存在する。ひとつは「岩木健康増進プロジェクト」で

4K8K 衛星放送

マスプロは4K・8K衛星放送受信設備のパイオニアとして応援します。

オリエント商会株式会社

青森市第二問屋町三丁目6-8 電話 739-0163

総合断熱資材・空調部材

(株)オー・ケー・アイ

〒030-0131 青森市問屋町二丁目20-7

TEL (017) 764-1105 FAX (017) 728-3371

入学生募集!

—地域社会の高度情報化を担う即戦力の人材を育成します—

職業訓練法人 青森情報処理開発財団

あおもりコンピュータ・カレッジ

青森市荒川字柴田129 TEL 017-739-1311 URL : http://www.acc.ac.jp

株式会社 小山商会

青森出張所

青森市問屋町一丁目14-5 TEL(017)728-5680 FAX(017)728-5681

本社 仙台市青葉区花京院二丁目2番75号(小山ビル) TEL 022(265)9701(代) FAX 022(265)7615

支店 仙台・東京・名古屋・大阪

営業所 札幌・青森・盛岡・郡山・北関東・筑波

千葉・静岡・京都・岡山・福岡

工場 本社・札幌・関東・静岡・中部・関西

東日本大震災の復興状況を視察 公共施設等視察会

企画情報委員会（佐治委員長）が企画する公共施設等視察会が11月7日（火）に開催された。今回は組合員ら13名が参加し、震災からの復興を目指す宮城県南三陸町を視察した。

視察会では仙台駅まで新幹線で移動後、貸切バスで復興道路として整備が進められている三陸沿岸道路（仙台港北～南三陸海岸）を通行し南三陸町を訪れた。

同町の南三陸ポータルセンターでは、町を津波が襲った際に地元住民が撮影した動画を、ボランティアアガイドの



津波到達地の高台でガイドが説明

妻への感謝の気持ちを込めて フラワーアレンジメント教室

3年目となるフラワーアレンジメント教室が、11月20日（月）に問屋町会館が開かれた。同教室は、青森県花のくまぐり推進協議会（富樫会長）の協力のもと、男性限定で開



作品作りに励む参加者

団地企業訪問

今回の団地企業訪問では、JKホールディングス（株）のグループ会社の中核を担う、ジャパン建材（株）青森営業所の吉田所長にお話を伺った。

同社は昭和12年に創業し、平成18年にJKホールディングス（株）を株式会社とする新体制をスタート。住宅に関わるあらゆる建築資材を取り扱う総合建材卸売業として「快適で豊かな住生活の創造」を企業理念に、JKホールディングス傘下のグループ各社と一体となって家づくりをトータル的にサポートしている。「当社では国内外に百を超える事業所を展開し、合板・木材



ジャパン建材（株）青森営業所 所長 吉田 光修氏

や住宅建材・資材、外装材に加えキッチンなどの住宅設備機器まで、住まいに関わるあらゆる資材を取り扱っています。各拠点に保管倉庫をしっかりと準備することで常に身近に在庫があり、お客様の要望にタイムリーに答えられるということも当社の強みの一つです。また、資材の販売だけでなく、工務店様の受注・契約のお手伝いからロイン付け各種申請のサポートまで幅広いサービスを提供しています。今後もお客様との共創・成長を目指し、これからの住宅業界とともに生き抜いていきたいです」とアピール。

業界の現状について話が及ぶと「東日本大震災の復興事業が徐々

に落ち着いてきている一方で、首都圏では東京オリンピックに向けた作業に追われるなど、業界全体としては上向き傾向にあります。その反面、職人の人手不足が課題となっており、特に若手の技術者は減少の一途を辿っています。こういった穴を埋める体制づくりが当社の今後の課題だと思っています。また、入社後25年の時を経て地元青森勤務となり今年で2年目になりますが、雪が降る冬期間はどうしても売上が落ち込むため、その対応策を只今検討中です。次の転勤の話が出るまでにはなんとか達成させたいです」と語

催し、23名が参加。11月22日の「いい夫婦の日」を前に、妻への日頃の感謝を込めて作品作りに励み、完成した作品は各自笑顔で持ち帰った。フラワーアレンジメント教室の様子は、NHKの取材を受け、「いい夫婦の日」の11月22日の夕方のニュースで放映された。

問屋町の第一印象について聞くと「イベントや交流会など、いろいろな活動の多さに驚きました。当社では週に1回ノー残業デーとしているため、イベント時において参加できるようにしたいです」と話してくれた。

同氏のプライベートでの目標はお腹周りの改善。「子どもの部活動を通じてトレーナーと話をする機会があり相談したところ、ゆつくりスクワットを毎日30秒やることを勧められ、1ヵ月で2kg痩せました。この調子で順調に痩せたいところですが、これからは忘新年会の時期なんですよね。家族と共有している言葉「最大の敵は自分の弱い気持ち」を思い出して頑張りたいです。」と微笑んだ。（46歳）

編集後記

今回の50周年記念の京都視察会は予想以上に実りあるものでした。そこで一面記事の補足や感想を述べます

▼京都は、京セラに代表されるイノベーションに優れたハイオク企業が多い土地柄です。今回の視察先もそのような基準で選定しました▼まず（株）インシグです。百年企業でありながら、世界でトップシェアの快速撃つづけている企業です。「三方よし」の企業理念から「徹底してマーケットに選ばれ製品開発」にその秘密があると思えました▼次の企業が、低料金戦略でよくマスクミを販売したMKタクシーです。朝早い冬空での一時間近くの乗務員訓練にはビックリしました。見学して北国の我々が風邪をひきそうでした▼MKタクシーは「挨拶をしなければ、運賃はいただきますが、これは「運賃にはサービス料が含まれている」との考え。サービスを怠ったなら運賃は頂戴できないという徹底した姿勢に急成長のカギがあると思えました▼視察先の最後が、京都錦市場商店街振興組合。宇津理事長の説明は得るところ大でした。「錦市場」ブランドを維持するために平成17年に京都府で初めて「錦市場」を商標登録▼「錦市場」の出身の伊藤若冲が、江戸期に市場の存続に尽力したという史実により、若冲をシンボルアートにするなど、「錦市場」は「文化的価値創出事業」の発祥の地とも言える場所でした▼他に駐車場やマンション運営を行う合同会社を設立したり、独自収入源でアーケード維持や井水管理などの「まちづくり」活動を行うなど先進地に相応しい組合でした。（藤本）

お茶は心にほぐもの。

宇治園

土作りから荒茶製造、選別、ブレンド、火入れ。すべての工程に息づく宇治園のこだわり。

青森支店
〒030-0131 青森市問屋町2丁目12-25
TEL017-738-4811 FAX017-738-4946

飲んで運転、お茶なら安全!

株式会社 技研
GIKEN

技研の社是である「技術を研磨」をイメージし、磨けば光ると言われるダイヤをモチーフに設定。上半分を「未来・希望・成功」の3つの光、下半分を「実績・信頼・挑戦」の3つの道として表現しています。

本社 〒030-0113 青森県青森市第二問屋町3丁目3番15号
TEL 017-757-9980 FAX 017-757-9981
盛岡事務所 〒020-0837 岩手県盛岡市津志田町1丁目12番18号
TEL 019-658-9486 FAX 050-3424-3026
青森工場 〒039-2312 青森県上北郡六戸町大字下吉田字赤田15番地の1
TEL 0176-70-1088 FAX 0176-55-3909